

地域振興県土警察常任委員会資料

(平成30年3月20日)

- 1 公益財団法人市町村振興協会への職員派遣について
【地域振興課】・・・1ページ
- 2 若桜鉄道「昭和」及び智頭急行「あまつぼし（天津星）」のデビューについて
【交通政策課】・・・2ページ
- 3 鳥取短期大学を中心とする県内大学等、県、産業界による包括連携協定の締結について
【教育・学術振興課】・・・4ページ
- 4 自転車競技 河端朋之選手へのスポーツ顕彰授与について
【スポーツ課】・・・5ページ
- 5 みんなで地方創生事業の執行状況について
【中部総合事務所、西部総合事務所】・・・6ページ

地 域 振 興 部

公益財団法人鳥取県市町村振興協会への職員派遣について

平成30年3月20日
地域振興課

公益財団法人鳥取県市町村振興協会への職員派遣について、以下のとおり報告します。

1 職員派遣の内容

- 現職の県職員1名を公益財団法人鳥取県市町村振興協会（以下「協会」という。）の事務局長として派遣する。
- 派遣形態は、公益的法人等への一般職の地方公務員の派遣等に関する法律第2条第4項の規定に基づく派遣とする。

2 協会の役割、派遣の背景・目的

(1) 協会の役割

協会は、県からの交付金を受け、災害等の融資、収益金の市町村配分、市町村職員の研修、市町村振興に係る資料収集等、県や市町村の事業と密接な関連を持つ事業を実施している。

(2) 職員派遣の背景・目的

- ① 市町村においては、人口減少・少子高齢化が進展する中、市町村間及び県との連携をより一層強めながら行政運営を進めているところである。県西部においては日野郡4町における連携協約での災害対応等の取り組みが行われ、東部圏域においては鳥取市の中核市移行に伴い連携協約を締結するなど、市町村間連携の取組を進めており、また、特定分野としてはICT分野において県と市町村で基幹システム等の共同利用のための自治体クラウドの導入により総行政コストを縮減するなど、様々な形により連携を深化させているところである。
- ② 協会においては、従来から災害等の融資、研修等の事業を行っているところであるが、今後、市長会、町村会などの市町村関係団体とも連携して、これらの事業を市町村のニーズに応じてより効果的かつ機動的に実施していくためには、市長会及び町村会の代表が役員となり、県内市町村に対して支援などを行う団体である協会において、市町村及び県の行政運営に精通している現職の職員が事務局運営を担うことも有効と考えられることから、この度、職員を派遣できるよう体制を整備するものである。

(参考) 公益財団法人鳥取県市町村振興協会の概要

- | | |
|--------|---|
| 1 名称 | 公益財団法人鳥取県市町村振興協会（理事長：鳥取市長） |
| 2 所在地 | 鳥取市東町一丁目271（鳥取県庁第2庁舎） |
| 3 主な事業 | (1) 公益目的事業
①ハロウィンジャンボ宝くじ等市町村交付金事業、②災害支援金事業、③広域消防
応援等交付金、④情報提供事業、⑤人材育成支援事業など |
| | (2) 収益事業
①貸付事業、②預託事業 |
| | (3) 法人運営事業
①法人運営 |

若桜鉄道「昭和」及び智頭急行「あまつぼし（天津星）」のデビューについて

平成 30 年 3 月 20 日

交通政策課

若桜鉄道観光列車「昭和」及び智頭急行イベント列車「あまつぼし」が相次いで運行を開始しました。今後、鉄道の魅力向上を図り、県内外から多くの利用者を確保するとともに、観光列車の運行を契機とした沿線地域の活性化及び地域の魅力発信を行っていきます。

1 若桜鉄道「昭和」について

(1) 出発式の概要

- ア 日時・場所 3月4日(日) 8:45～、若桜駅
イ 出席者 石破衆議院議員、青木参議院議員、舞立参議院議員、福田県議会議員、西川県議会議員、(株)トーンデザイン研究所水戸岡社長、平井知事、矢部若桜町長、吉田八頭町長等



- ウ 概要 出席者によるテープカットや記念撮影の後、臨時列車として初便ツアー客 40 名が郡家駅に出発。車内では専属アテンダントによる観光ガイドや車内販売、水戸岡氏による車両説明が行われたほか、沿線では地元団体によるおもてなしが行われた。

(2) 「昭和」車両の概要

- ・JR九州の観光列車「ななつぼし」等のデザインを手がけた工業デザイナーの水戸岡氏により、「地元の人が乗りたくなる地域のための車両」をコンセプトの一つとして設計。
- ・「昭和」のネーミングは、若桜鉄道沿線の人・事・ものから昭和がイメージされたことから「昭和」と名付けられ、沿線で一番美しい日本の「桜」をシンボルマークとして展開。
- ・外観は川の青、水の青から車体を青色とし、インテリアは車内に可能な限り木を使うことで人にやさしく、時代の求める用と美が表現された内装となっている。



(3) 「昭和」観光ツアーについて

- ・毎週日曜日を基本に団体客向けのツアー列車として運行されており、H30.1のツアー予約開始以降、旅行会社からの予約が相次ぎ現時点で予約可能な9月末までの予約が埋まっている状況。
- ・車内では水戸岡氏デザインによるキーホルダーやマグカップなどの昭和関連グッズの車内販売も行われ、また、ツアーでは若桜町の街歩きや大江ノ郷での「昭和」スペシャルランチの提供など、地元、若桜町、八頭町の魅力を感じることのできる内容となっている。



(4) 「昭和」デビュー当日の様子について

- ・初便ツアーは県内外からの乗客で販売開始から10日で完売したほか、地元住民など約500人が見学、沿線の各駅では約2,000人が手振り旗等によるおもてなしで「昭和」デビューを盛り上げた。
- ・郡家駅では水戸岡氏による講演会が行われ、列車や駅舎を活用したまちづくりに活用するなど、新たな鉄道の活用策を披露するとともに、「デザインは60点、残り40点は地元の皆さんとお客様で作る」と述べ、沿線地域の活性化にエールを送った。



2 智頭急行「あまつぼし」について

(1) 出発式の概要

ア 日時・場所 3月18日(日)12:20～、智頭駅

イ 出席者 福田県議会議員、西川県議会議員、最上恋山形駅名誉駅長、新田智頭駅長、平井知事、寺谷智頭町長、岩見八頭町副町長等

ウ 概要 出席者によるテープカットや記念撮影の後、地元の家族連れや鉄道ファンに参加いただき、車内観覧や試乗体験が行われた。また、当日の「あまつぼし」は大原車庫の出発であったことから、大原駅でお披露目会と「あまつぼし」愛称名付親への愛称名認定証贈呈、上郡で最初の団体貸切列車の出発式が行われた。



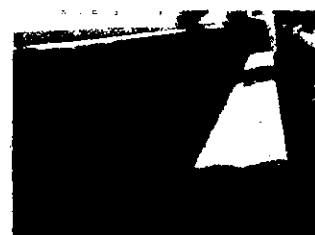
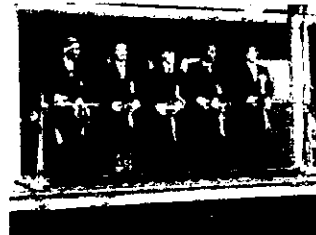
(2) 「あまつぼし」車両の概要

- ・愛称は一般公募334件から選ばれたもので自然あふれる智頭線沿線の澄み渡る夜空をデザイン、車体全体に広がる星の中にピンク色の「ハート型の星」が配置。
- ・定員は36名で、地元木製のテーブルはイベント時以外は取り外すことが可能。ロングシートのデザインは智頭線沿線の5市町村の花をイメージした柄をプリント。
- ・普通列車にも使用されるほか、イベント等での貸切にも使用され、最新の通信カラオケ・液晶モニターや、トンネル内で車外の壁面に映像を映し出すトンネルシアターの装置を設置。
- ・「あまつぼし」のデザインコンセプトや車体にハート形の星を配置するなどのアイディアは智頭急行社員の発案によるもの。



(3) 「あまつぼし」デビュー当日の様子について

- ・智頭駅での出発式では、見学に訪れた地元の家族連れなど多くの見物客で賑わい、また、「あまつぼし」の試乗会も智頭駅から恋山形駅間を1往復行われた。



3 今後の取組みについて

- ・鳥取県内では、H29.6にJR西日本の「瑞風」が運行開始となり、また、H30.7には観光列車「天地」がデビューする予定。この度、若桜鉄道「昭和」と智頭急行「あまつぼし」が運行開始となったことで、鳥取県内に多くの観光列車が走ることとなり鉄道が大きな盛り上がりを見せている。
- ・鳥取県としても、県内外から多くの乗客に鳥取県の鉄道をご利用いただくことを目的に、「鳥鉄の旅」をテーマに新しい鉄道の旅の創造に取り組む。

<H30に予定している主な取組み>

- ・鉄道で巡る旅だからこそ味わえる、鳥取県ならではの鉄道の旅「鳥鉄の旅」へ誘うガイドブック「鳥鉄のススメ」の作成、全国的な鉄道イベントへの出展、鉄道専門誌への掲載などにより全国に鳥取県の鉄道の旅の魅力をPR。
- ・鉄道沿線のおもてなしや鉄道を活用した観光メニュー開発への支援を行う。(例：横断幕や歓迎用小旗の制作や停車等での伝統芸能の披露など)
- ・若桜鉄道は4両所有する車両のうち3両をH29年度から1年ごとに観光列車に改修予定であり、H31.3に2両目の観光列車がお目見え予定。

鳥取短期大学を中心とする県内大学等、県、産業界 による包括連携協定の締結について

平成30年3月20日
教育・学術振興課

1 要旨

学校法人藤田学院 鳥取短期大学を中心に、大学等・県・産業界の包括連携体制（プラットフォーム）を形成することにより高等教育の質の向上及び地域の活性化をはかることを目指す「とっとりプラットフォーム5+α」が立ち上げられ、このほど、その内容が評価され、文部科学省の私立大学等改革総合支援事業（タイプ5[プラットフォーム形成]）に採択されたことから、その概要を報告します。

2 経緯等

H29年 8月 H29私立大学等改革総合支援事業（タイプ5）の全国公募開始
 10月 構成団体 包括連携締結に合意
 11月 藤田学院 私立大学等改革総合支援事業（タイプ5）に申請
 H30年 2月 H29私立大学等改革総合支援事業（タイプ5）に採択
 ※全国で9件採択（応募21件）。中四国では唯一の採択
 3月 藤田学院 記者発表

3 私立大学等改革総合支援事業（タイプ5）の概要

- 私立大学等改革総合支援事業は、私立大学等による高等教育の魅力化や質の向上に資する改革の取組みを支援するもの
- そのうち、タイプ5[プラットフォーム形成]は、地域の大学等・自治体・産業界による包括連携体制の形成により、高等教育の魅力化や質の向上をはかる取組を支援する

<連携のイメージ>

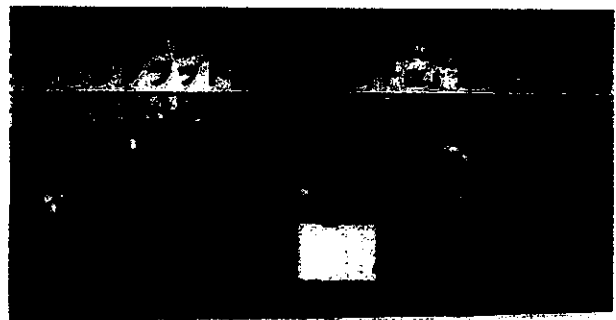
- ・地域課題解決への協力を通じた地域貢献、人間形成教育の充実
- ・単位互換等による地域の教育資源の共同化
- ・産学官連携による研究水準の向上、研究成果の共有 など

大学等の魅力化・
教育の質の向上

4 構成団体

鳥取短期大学、鳥取看護大学、鳥取大学、
公立鳥取環境大学、米子工業高等専門学校、
鳥取県、鳥取・倉吉・米子・境港商
工会議所、県商工会連合会、県中小企業
団体連合会

※とりまとめ団体は鳥取短期大学



5 主な連携事項

- 「まちの保健室」の全県展開
- 地域における子ども食堂・学習支援活動への参加協力
- 子育て支援講座の開講
- 若者定着に向けた、高大連携の充実（県内大学等による出前授業など）、インターンシップの取組の拡充、単位互換の取組の拡大 など

6 参考：他の関連する包括連携協定

名称	締結日	構成団体	主な内容
地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(通称 COC+)	H28.3.20	県内大学等(5)、県、 県内市町村(19)	大学等と自治体の協働による地元 定着率向上など地方創生を推進
鳥取県と学校法人藤田学院 の連携に関する包括協定	H28.3.30	藤田学院、県	地域人材育成の推進、地域と学生 との交流推進ほか
鳥取県4大学間の単位互換 に関する包括連携協定	H29.6.5	県内大学・短期大学 (4)	大学等間の単位互換についての基 本合意

自転車競技 河端朋之選手へのスポーツ顕彰授与について

平成30年3月20日
スポーツ課

3月1日にオランダで開催された自転車競技の2018UCIトラック世界選手権大会男子ケイリンに本県出身の河端朋之選手が日本代表として出場し、銀メダルを獲得しました。

その栄誉をたたえ、同選手にスポーツ顕彰を授与しました。

1 表彰概要

- (1) 実施日：3月13日（火）16:00～16:20
- (2) 場 所：知事公邸 第一応接室
- (3) 受章者：河端朋之選手
- (4) 内 容：「2018UCIトラック世界選手権大会」男子ケイリン銀メダル獲得に対してスポーツ顕彰を授与した。河端選手は2014年アジア大会（個人準優勝、団体3位）以来2回目の受賞。

(5) 河端選手のコメント

「目標は世界選手権と東京五輪の金メダル。まだまだやるべきことはたくさんある。自分の活躍で後輩たちを引っ張っていく。努力して鳥取県を盛り上げたい。応援よろしくをお願いします。」

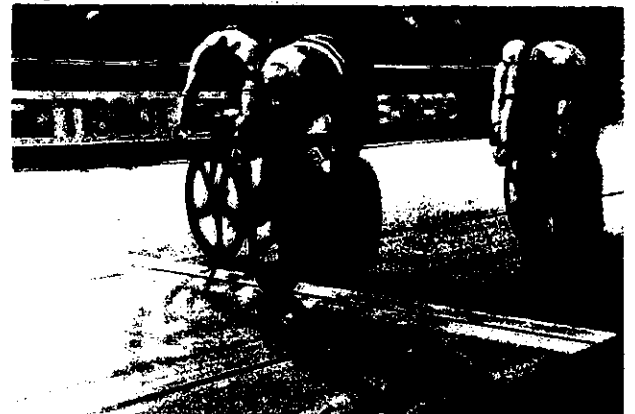


【スポーツ顕彰授与式 河端選手を囲んで】

2 大会結果

男子ケイリン決勝は6選手によるレース。最終周回で後方から切れのある追い込みを見せ、最後の直線で2位となり銀メダルを獲得。トップとの差は0秒043差。世界選手権での日本人によるメダル獲得は1993年の3位となった吉岡稔真（よしおかとしまさ）選手以来の25年ぶり。

- ・1回戦 4組2位
- ・敗者復活戦 4組1位
- ・準決勝 2組3位
- ・決勝 2位



【決勝2位でゴールした河端選手（左）】

3 選手プロフィール

河端 朋之（かわばた ともゆき）

- ・1985年生まれ（33歳）
- ・琴浦町出身、倉吉工業高等学校卒業
- ・プロ競輪選手（日本競輪選手会岡山支部所属）
（現在は日本代表選手で静岡県伊豆市のベト・ホームが拠点）

主な国際大会の競技成績

- ・2014年 第17回アジア競技大会 ⇒ スポーツ顕彰受章
男子スプリント銀メダル
男子チームスプリント銅メダル
- ・2015年 第35回アジア自転車競技選手権大会トラックレース
男子スプリント金メダル
- ・2018年 第38回アジア自転車競技選手権大会トラックレース
男子ケイリン金メダル
男子チームスプリント銀メダル

※ 2016年10月に就任したブノワ日本代表コーチの指導に「自分の本来の力を気付かせてくれた」と信頼を置く。ブノワコーチの指導により従来の「先行逃げ切り型」から「後方追い込み型」に戦略変更し、好成績につながった。



【左：ブノワ・ベトウ短距離ヘッドコーチ（フランス出身）
中：河端選手
右：ジェイソン・ニブレット短距離アシスタントコーチ（オーストラリア出身）】

みんなで地方創生事業の執行状況について

平成30年3月20日
東 部 振 興 課
中 部 総 合 事 務 所
西 部 総 合 事 務 所

地方創生の実現に向けて、民間団体等が取り組む地方創生に資する取組を支援し、官民一体となった取組を推進するため、地域の実情や特性に配慮しながら、時期を失することなく効果的に事業が実施できるよう、東部振興監、中部総合事務所及び西部総合事務所において実施している「みんなで地方創生事業」の執行状況を報告します。

1 東部振興監

(単位：円)

事業名	事業内容	事業主体	執行額	成果等
「食のみやこ鳥取県」PRイベントの開催	<p>「Pokémon Go Safari Zone in 鳥取砂丘」の開催に併せて、「食のみやこ鳥取県」をPRするイベントを開催し、県内外からの来場者に鳥取県産食材を使用した地元グルメが味わえる屋台を出店するとともに、鳥取県内の飲食店・グルメ紹介冊子「鳥取食探」や観光パンフレット等を配布し、優れた食のPRを行った。</p> <p>日時 平成29年11月24日(金)から26日(日)まで 各日 午前8時から午後6時まで</p> <p>場所 「食のみやこ鳥取」グルメの丘(砂丘センター見晴らしの丘砂丘テラス)</p> <p>参加者 約8万9千人 (Pokémon Go Safari Zone in 鳥取砂丘参加者)</p>	鳥取県	1,766,660	鳥取県産食材を使用した飲食、物販、PRなど10ブース出展し、飲食ブースでは8,000食を売り上げるなど鳥取県の優れた食をPRすることが出来た。
計			1,766,660	

2 中部総合事務所

(単位：円)

事業名	事業内容	事業主体	執行額	成果等
<p>関金温泉開湯 1300年祭 首都圏PR事業</p>	<p>関金温泉開湯1300年祭の開催に当たり、倉吉・関金が終焉の地となり「南総里見八犬伝」のモデルと言われる里見忠義公にまつわる歴史講談と関金で暮らされている方の想いを記録した動画上映を柱として、首都圏で開湯1300年祭及び倉吉・関金の観光PRを行った。</p> <p>日 時：平成29年8月8日(火)から 8月9日(水)まで</p> <p>場 所：東京アンテナショップ (とっとり・おかやま新橋館)</p> <p>来場者：プロモーションゾーン(1階) 約200名 祭事スペース(2階) 約110名</p> <p>内 容：歴史講談や関金の映像、甲冑の試着、関金牛の試食、特産品の販売等</p> <p>その他：実行委員会の一員として、中部総合事務所地域振興局と倉吉市が協力した。</p>	<p>源泉回帰「関金温泉開湯1300年祭」実行委員会</p>	<p>398,531</p>	<p>鳥取県中部の観光資源としての倉吉市・関金温泉を首都圏で情報発信し、周知できた。</p> <p>あわせて、鳥取県中部地震からの復興や大山開山1300年祭をアピールできた。</p>
<p>中部地区ジビエ 利用推進の機運 醸成試食会</p>	<p>県産イノシシ肉を使用したジビエ試食会を開催し、旅館・ホテルでのジビエ料理の開発を促進するとともに、中部地区のジビエ利用の機運醸成を図った。</p> <p>日 時：平成30年2月28日(水) 正午から午後1時30分まで</p> <p>場 所：三朝温泉 花屋別館</p> <p>参加者：狩猟者、食肉処理施設、卸業者、ホテル・旅館、加工業者、商工団体等支援機関、行政などジビエに関係する川上から川下の関係者 約60人</p> <p>出展事業者等：中部地区の旅館・ホテル 11事業者が12メニューを提供した。</p> <p>その他：同時開催として、狩猟者、食肉処理者、加工業者、調理師等による意見交換会を開催した。</p>	<p>(一社)鳥取県調理師連合会</p>	<p>600,000 (概算払額 ・額未確定)</p>	<p>県東西部に比べてジビエ料理の提供店舗が少ない県中部において、ホテル・旅館でジビエ料理を提供しようとする機運が高まった。</p> <p>また、従来廃棄処分されていた部位(レバー)や利用の少ない部位(モモ)であっても、工夫次第でジビエ料理として利用できることが分かった。</p>
<p>計</p>			<p>998,531</p>	

3 西部総合事務所

(単位：円)

事業名	事業内容	事業主体	執行額	成果等
たたら電子紙芝居製作 【日野振興センター】	<p>日野郡のたたら製鉄の歴史を物語仕立てで紹介する電子紙芝居（ナレーション、BGMを収録）を制作し、大山山麓を取り巻く歴史・文化的資源を地元住民や観光客にわかりやすく解説することで、大山開山1300年祭に向けた機運を盛り上げるとともに、地域の誇りである「たたら」が、観光資源として再認識され、日野郡の魅力創出につながることを目指す。広くホームページ上やイベント会場等で上映していく。</p> <p>（平成26年度に制作した「たたら」解説紙芝居（3編）を電子化するとともに、日野郡の優れたブランド鉄「印賀鋼」を題材とした物語（1編）を新たに電子紙芝居として制作。</p>	鳥取県	498,960	<p>日野郡のたたら製鉄の歴史や刀工「伯耆安綱」について解説する電子（上映）素材を制作し、各種イベント会場で上映することで、地域の観光資源として情報発信する幅が広がった。大山開山1300年祭で計画中の「たたらサミット（仮称）」でも活用して全国発信したい。</p>
伯耆国「大山開山1300年祭」記念シンポジウム 【地域振興局】	<p>県西部地域において、急速に進むインバウンドに対する受け入れ地域の対応や魅力向上などの対策として、観光施策等についてアドバイスを含めた講演会を開催し、地域の宝を磨き上げる取組をさらに効果的に推進することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年3月27日（火） ・米子コンベンションセンター 小ホール ・来場者：300名（予定） ・基調講演、鼎談 	鳥取県	1,500,000 (予定)	—
計			1,998,960	